



蒲池 美鶴
(かまち みつる)

1951 年 9 月 愛媛県松山市に生まれる

【学歴】

1964 年 3 月	愛媛大学教育学部附属小学校卒業
1967 年 3 月	愛媛大学教育学部附属中学校卒業
1970 年 3 月	愛媛県立松山東高等学校卒業
1970 年 4 月	愛媛大学法文学部文学科入学
1973 年 10 月	愛媛大学休学，サンケイスカラシップを受けてバーミンガム大学シェイクスピア研究所に留学
1975 年 3 月	愛媛大学法文学部文学科卒業（英語英米文学専攻）
1975 年 4 月	京都大学大学院文学研究科英語英米文学専攻修士課程入学
1977 年 3 月	同修士課程修了
1977 年 4 月	同博士課程に進学
1979 年 9 月	同博士課程中途退学

1999 年 3 月 京都大学より論文博士（文学）の学位を受ける

【職歴・海外研修歴】

1979 年 10 月 鹿児島大学教養部講師
 1983 年 4 月 東京大学教養学部助教授
 1986 年 10 月 British Council の奨学金を得てロンドン大学ウォーバーク研究所で 1 年間研修
 1987 年 10 月 ケンブリッジ大学クレア・ホールフェロー
 1988 年 10 月 ロンドン大学インペリアル・カレッジ講師
 1989 年 4 月 英国暁星国際大学助教授（途中介護のため一時帰国）
 1990 年 10 月 京都大学教養部助教授
 1992 年 10 月 京都大学総合人間学部助教授（改組による）
 2000 年 4 月 国際交流基金の助成によりウォーバーク研究所で 1 年間研修
 2001 年 10 月 立教大学文学部英米文学科教授
 2007 年 10 月 研究休暇を得てウォーバーク研究所で研修（途中介護のため一時帰国）
 2017 年 3 月 立教大学文学部停年退職

【非常勤講師その他】

- ・学習院大学，立教女学院短期大学，早稲田大学非常勤講師
- ・BBC・NHK 共同制作 TV ドラマ *The Ginger Tree*（1989）の英国ロケ時における通訳及び主演女優の日本語指導
- ・British Council 主催の国際文学セミナーに招待参加

【所属学会と主な活動（研究発表・セミナーを除く）】

- ・日本シェイクスピア協会（委員，編集委員，監査役，シェイクスピア祭講演など）
- ・国際シェイクスピア協会（隔年に開かれる The International Shakespeare Conference 及び 5 年に一度開かれる The International Shakespeare Association World Congress に招待参加）
- ・西日本芸術療法学会（特別講演）
- ・日本英文学会
- ・京大英文学会

【業績】

Ⅰ. 単著

1. 『わたしは小学生』 くろしお出版, 1964年9月, 221 pp.
2. 『新版 わたしは小学生』 青葉図書, 1978年6月, 306 pp.
3. 『シェイクスピアのアナモルフォーズ』 研究社出版, 1999年11月, viii+292 pp. (サントリー学芸賞受賞).
4. 『樹々はみな』 白鷺出版, 2017年4月.

Ⅱ. 共著および単行本所収論文

5. 「プロスペローの役割の重要性」『菅泰男・御輿員三両教授退官記念論文集』(1980年11月, vi+979pp.) pp. 199-212.
6. 「『その名がグレイスであれば……』——『冬物語』再考——」日本シェイクスピア協会編『シェイクスピアの喜劇』(研究社出版, 1982年10月, 276pp.) pp. 185-202.
7. Cowie, Martin and Mitsuru Kamachi. *Dialogues: Conversations and Readings about Britain and the English Language*. The Shinozaki Shorin Press, Mar. 1983, 87pp.
8. 「『終わりよければすべてよし』・『ペリクリーズ』・『冬物語』」福田恒存監修『シェイクスピアハンドブック』(三省堂, 1987年9月, iii+758pp.) pp. 577-84, 594-602, 615-23.
9. 「シェイクスピアのタネ本：オリジナリティはどこから？」高田康成他編『シェイクスピアへの架け橋』(東京大学出版会, 1998年4月, v+333pp.) pp. 119-32.
10. 「隠された薔薇十字——ホルバインの『大使たち』における deviation の魔術」高橋康也編『逸脱の系譜』(研究社出版, 1999年5月, 610pp.) pp. 280-96.
11. 「オセロー」『シェイクスピアがわかる。』(朝日新聞社, 1999年12月, 176pp.) pp. 14-17.
12. “‘Those Are Pearls that Were His Eyes’: Shakespeare’s Holographic Imagination.” *Hot Questrists After the English Renaissance: Essays on Shakespeare and His Contemporaries*, edited by Yasunari Takahashi, AMS Press, 2000 (296pp.), pp. 101-13.
13. 高橋康也他編『研究社シェイクスピア辞典』(研究社出版, 2000年11月,

xi+973pp.) 『ヘンリー八世』『血縁の二公子』他多数の項目を担当.

14. "East Meets West: Japanese Theatre in the Time of Shakespeare." *Shakespeare Studies Volume XXXII*, edited by Susan Zimmerman, Associated University Presses, 2004 (448pp.), pp. 23-35.
15. 「宇宙としての劇場——『胡桃の殻』と『無限の宇宙』」青山誠子編著『ハムレット』（ミネルヴァ書房，2006年2月，200pp.）pp. 23-35.
16. 「シェイクスピアの喜劇」日本シェイクスピア協会編『新編 シェイクスピア案内』（研究社出版，2007年7月，vii+233pp.）pp. 39-57.
17. 「資料としての絵画——ソネット二四番と『エドワード六世の肖像』」菅谷憲興編『人文資料学の現在 II』（春風社，2008年，xiii+270pp.）pp. 145-74.

Ⅲ. その他の論文

18. "Some Usages of Relative Pronouns in Elizabethan English." *The Helicon*, No. 25, Mar. 1973, pp. 46-66.
19. "Themes of Mutability in Shakespeare" (バーミンガム大学シェイクスピア研究所図書館所蔵. 卒業論文として1974年愛媛大学に提出).
20. "The Fool in *King Lear*" (京都大学修士論文, 1977年).
21. "Shakespeare as Theatrical Experience: Centering on *Pericles* and *The Winter's Tale*" (1978年9月提出, British Council 主催英語論文コンテスト2位).
22. "The Theme of Time in *The Winter's Tale*." *Albion*, New Series Number 25, Oct. 1979, pp. 18-38.
23. "The Function of the Masque in *The Duchess of Malfi*" 『英文学研究』第56巻第2号(1979年12月)pp. 335-52. (日本英文学会新人賞第2回受賞論文).
24. "Vindice Vindicatus: The Hidden Trickster in *The Revenger's Tragedy*." *Shakespeare Studies*, Vol. 16, Apr. 1981, pp. 1-17.
25. 「今日のシェイクスピア——問題劇——」『英語青年』第128巻第1号(1982年4月) pp. 52-53.
26. "'Would Her Name Were Grace': A Reconsideration of *The Winter's Tale*." *Shakespeare Studies*, Vol. 18, Dec. 1983, pp. 57-71. (No. 6の論文を日本シェイクスピア協会の要請で英訳したもの).
27. "The Purblind Argus: A Hidden Emblem in *Troilus and Cressida*." *Studies in*

- English Literature*, English Number, Mar. 1985, pp. 21-35.
28. “Lente Currite Noctis Equi: *Doctor Faustus* and Its Audience.” *Poetica: An International Journal of Linguistic-Literary Studies*, Vol. 21 · 22, 1985, pp. 121-31.
 29. 「天静地動」『季刊 へるめす』第6号（岩波書店，1986年3月）pp. 178-79.
 30. 「球体の変貌——『地球座』と地球の座——」『文学』第54巻第4号（岩波書店，1986年4月）pp. 27-38.
 31. 「ジョン・エリオット」『シェイクスピアリアーナ』Vol. 9（丸善，1989年10月）pp. 52-69.
 32. 「『間違い』の七つの型——16世紀日英交流資料における虚構と史実の間——」『京都大学総合人間学部紀要』第1巻（1994年7月）pp. 27-38.
 33. 「鏡と影——『モルフィ公爵夫人』第三幕第二場の三つの演出法——」『英文学評論』第67集（1994年11月）pp. 19-33.
 34. “What’s in a Name?: Hermione and the Hermetic Tradition in *The Winter’s Tale*.” *Shakespeare Studies*, Vol. 29, Dec. 1994, pp. 21-36.
 35. 「“Sleep Kill Those Pretty Eyes”：アナモルフォーズのクレシダ像」『英文学評論』第68集（1995年11月）pp. 1-16.
 36. 「アナモルフォーズの箱——ソネット24番と『エドワード六世の肖像』——」*Albion* 復刊 42号（1996年10月）pp. 1-14.
 37. 「“The Multitudinous Seas”——『マクベス』における「罪」のアナモルフォーズ——」『人間・環境学』第6巻（1997年12月）pp. 107-17.
 38. 「“The Shadow of Your Sorrow”——『リチャード二世』とアナモルフォーズの影——」『京都大学総合人間学部紀要』第5巻（1998年11月）pp. 45-57.
 39. 「エリザベス朝演劇のアナモルフォーズ」（1998年12月京都大学文学部提出博士論文。これに手を加え、『シェイクスピアのアナモルフォーズ』として翌年出版）.
 40. “Banquo’s Glass: The King of Anamorphosis on the First Night of *Macbeth*.” *Shakespeare Studies*, Vol. 38, Aug. 2001, pp. 39-53.
 41. 「鏡の中のアナモルフォーズ」*Eyes* 第11号（丸善，2001年8月）pp. 17-20.
 42. 「“Too Much in the Sun”——ハムレットとアナモルフォーズの宇宙」『英

語青年』第148巻第10号（2003年1月）pp. 607-11.

IV. 翻訳

43. (共訳)「サミュエル・ダニエル『ディーリア』」『鹿児島大学英語英文学論集』第12号（1981年3月）pp. 1-62.
44. (共訳)「マイクル・ドレイトン『アイデア』」『鹿児島大学英語英文学論集』第13号（1982年3月）pp. 1-73.
45. 「マリー・ストープスの手記」エドワード・マークス著『レオニー・ギルモア：イサム・ノグチの母の生涯』羽田美也子他訳（彩流社，2014年1月，520pp. + 21pp.）pp. 263-70. 翻訳分担についてはp. 519の訳者後書きを参照。なお、本書の原文である Edward Marx, *Leonie Gilmour: When East Weds West*. Bochan Books, Apr. 2013, 440pp. に関しては、企画・構成段階から著者にアドヴァイスを行った。本書は2015年に第2回日本研究賞を受賞。

V. 解説

46. 小田島雄志訳『シェイクスピア全集』第10巻『ロミオとジュリエット』（白水社，1983年10月）pp. 216-26.
47. 同，第24巻『トロイラスとクレシダ』（白水社，1983年10月）pp. 238-47.
48. 同，第25巻『終わりよければすべてよし』（白水社，1983年10月）pp. 188-97.
49. 同，第33巻『ペリクリーズ』（白水社，1983年10月）pp. 173-83.
50. 同，第35巻『冬物語』（白水社，1983年10月）pp. 216-26.
51. (解説・注釈) *Labo Cassette Library Shakespeare Series 2: Macbeth*（ラボ教育センター，1984年10月）pp. 174-96.

VI. 書評

52. 「新刊書架：野島秀勝著『迷宮の女たち』」『英語青年』第127巻第10号（1982年1月）pp. 651-52.
53. 「Books from Abroad: Peter Thomson: *Shakespeare's Theatre*. Routledge & Kegan Paul, 1983.」『英語青年』第129巻第8号（1983年11月）p. 401.
54. 「新刊書架：Yasunari Takada, editor. *Surprised by Scenes: Essays in Honour of Professor Yasunari Takahashi*. Kenkyusha, 1994」『英語青年』第140巻第

3号(1994年6月) p. 143.

55. 「Tetsuo Kishi, et al. editors. *Shakespeare and Cultural Traditions: The Selected Proceedings of the International Shakespeare Association World Congress, Tokyo, 1991*. U of Delaware P, 1994. 379pp.」『英文学研究』第73巻第1号(1996年9月) pp. 120-25.

Ⅶ. エッセイ・詩・講演記録など

56. 「ローマ字日記」『ことばの教育』123号(ローマ字教育会, 1960年5月) pp. 4-9.
57. 「もぐらの観察」『小四 教育技術』第14巻第13号(小学館, 1962年2月) pp. 86-89; 『小学国語 4年上』(大阪書籍 1965年1月) pp. 44-53.
58. 「小川未明とアンデルセンの比較研究」『第三回入選中学生文芸作品集』(新紀元社, 1965年1月) pp. 53-64.
59. 「『旅人』の世界」『考える読書』(毎日新聞社, 1968年4月) pp. 334-35.
60. 「ミーコの話」『新版 標準国語 六年上』(教育出版, 1971年1月) pp. 30-39.
61. 「T. S. エリオットのこと」『京大教養部報』No. 192(1991年1月) pp. 4-5.
62. 「外国小学生作文 鼯鼠観察記」(『小学生作文』(新蕾出版社, 1993年5月号) pp. 31-33 (No. 57 「もぐらの観察」の中国語訳).
63. 「猪二題」『えひめ雑誌』(愛媛新聞社, 1995年2月号) pp. 71-72.
64. 「一本の藁しべ」FAD 編集部編『聖なる体験』(FAD, 1995年9月) pp. 131-38.
65. "The Three Graces." *Meridian Poet and Writers Club Autumn Prizewinners 1995*, edited by Alexander Bourne, 1995, p. 18. (英詩).
66. "The Tarantula on the Wall." *The Path Not Taken*, edited by Caroline Sullivan, The National Library of Poetry, 1996, p. 98. (英詩).
67. "Musica." *Meridian Poet and Writers Club Spring Prizewinners 1996*, edited by Alexander Bourne, 1996, p. 20. (英詩).
68. "Jesus and My Camera." *Meridian Poet and Writers Club Winter Poetry Prizewinners 1996*, edited by Alexander Bourne, 1996, p. 5. (英詩).
69. 「樹々はみな……」1997年3月2日読売新聞朝刊(短歌).
70. 「壺という字は」1997年5月22日読売新聞朝刊(詩).
71. 「『ハムレット』とアナモルフォーズの宇宙」*Shakespeare News*, Vol. 42, No.

- 1, Sept. 2002, pp. 18-19. (2002 年度シェイクスピア祭講演要旨).
72. 「山の住人」『文化愛媛』 No. 49 (2002 年 10 月) p. 68.
73. 「漱石と子規——向かい合う東洋と西洋——」『西日本芸術療法学会誌』 No. 32 (2004 年 7 月) pp. 1-7. (2003 年 6 月西日本芸術療法学会特別講演).
74. 「今出の海」『明教』 No. 45 (2015 年 3 月) pp. 83-85.
75. 「シェイクスピアのアナモルフォーズ——『ヴェニスの商人』を中心に——」早稲田大学演劇博物館主催シェイクスピア祭演劇講座 (2016 年 5 月講演 DVD 96 分).
76. 「小面」『平成二十八年度第十回島熊山能面祭図録』 (2016 年 8 月, 能面).